

9月16日(火) 18時～19時

会場：国立国際医療研究センター  
国際医療協力研修センター4階 セミナー室3, 4

今月の話題 国際協力（10月6日は国際協力の日）

「国際保健の潮流とNCGMの取組み」(15分)

「日本の国際保健医療協力-今後の展望-」(15分)

それぞれ質疑を15分行います

### 話題提供者

仲佐 保 国際医療協力局 国際派遣センター長  
明石 秀親 国際医療協力局 研修・企画課長

### NCGMメディアセミナーとは？

当センターが取り組む健康・医療の課題を広く共有するために開催しています。専門家からの情報収集、不明事項の確認の場、また、医療に関わる専門家がメディアの方の質問から学び、視野を広げる場とすることが目的です。質問・取材の中で必要なデータや写真等のご希望がありましたら、随時お問い合わせください。可能な範囲で対応させていただきます。

### ★メディアセミナー事務局(申込先)

電話 03-3202-7181 ex 2028

FAX 03-3207-1038

メール [web-master@hosp.ncgm.go.jp](mailto:web-master@hosp.ncgm.go.jp)

※セミナーに参加を希望される方はFAXあるいはメールにて「氏名・所属・連絡先」をお知らせください。

(申込締切:9月15日(月)17:00)



## 講師略歴(仲佐 保/なかさ たもつ)

1980年広島大学医学部卒。1995年ジョンズホプキンス公衆衛生大学校公衆衛生修士。  
旧国立病院医療センター外科研修医としての卒後より、国際医療協力に興味を持ち、人道援助分野では、カンボジア難民医療、エチオピア飢餓被災民援助、また、緊急援助隊医療チームの一員として、ソロモン群島ハリケーン災害、ニカラグア津波災害に参加。その他、保健医療協力として、ボリビア病院協力、パキスタン母子保健プロジェクト、ホンジュラスリプロダクティブヘルスプロジェクトの長期専門家およびチーフアドバイザーとして活躍。保健医療プロジェクトの評価調査や無償資金協力調査の技術参与として、カンボジア、ラオス、ベトナム、ザンビア、パキスタン、スリランカなどにも参加。2011年の東日本大震災では、宮城県東松島市に対しての国立国際医療研究センターの災害援助及び復興援助を事務局長として指揮、現在も復興を支援中。

## 「国際保健の潮流とNCGMの取組み」概要

1978年WHO・UNICEF・各国代表らが国際会議を開催し、「2000年までに全ての人に健康を」と訴えた(アルマ・アタ宣言)。これは貧しい農村部における予防・治療サービスを少ない費用であまねく提供しようという試みであった。2000年には国連ミレニアム・サミットが開かれ、貧困・教育・ジェンダー・保健・環境など、8つの目標と21のターゲットが定められた(ミレニアム開発目標)。しかし目標年(2015年)まで残りわずかとなったいま、解決されていない課題は多い。  
なぜ人々の健康問題は解決しないのだろうか？開発途上国の現場の実情を伝え、日本発保健ODAの軌跡とNCGMの取組みを紹介する。

## 講師略歴(明石 秀親/あかし ひでちか)

1983年奈良県立医科大学卒業。東京都立広尾病院で研修後、東京女子医科大学心臓血管研究所、東京大学第3外科などで外科に従事。英国リバプール大学熱帯医学衛生大学院(熱帯医学衛生ディプロマ)、米国ジョンズ・ホプキンス大学公衆衛生大学院(公衆衛生修士)修了。阪神淡路大震災支援に参加。1995年より旧国立国際医療センターに移り、カンボジアやボリビアなどでのプロジェクトに従事し、様々な国に対するJICAを通じた二国間援助や国際機関の会議等に参加。一時、名古屋大学医学部国際保健医療学教室准教授。東松島支援に従事。カンボジアの診療費に関する論文で、医学博士取得。現在、国立国際医療研究センター 国際医療協力局 研修企画課 課長。

## 「日本の国際保健医療協力、今後の展望」概要

国際社会においてめまぐるしく変化するグローバルヘルス、国際保健医療協力の分野から3つのトピックを取り上げる。

1. 医療の国際化に向けて ー医療輸出と国際協力
2. グローバルヘルスの知見の国内政策への還元
3. ミレニアム開発目標(MDGs)からbeyond MDGsへ ー2015年以後のメインストリーム